私から見た土地改良

桑原　悠

津南町長に聞く

二五歳で全国最年少の町議会議員になった後、結婚、出産を経て子育てしながら三一歳で全国最年少の女性町長となった新潟県津南町の桑原悠（はるか）町長。農家と旅館女将とのコラボレーションによる需要拡大や津南未来会議による住民参加の町づくりなどの地域振興政策とともに、今後の土地改良についてお話を伺った。

聞き手●米田　博次
株式会社　安藤・間　執行役員営業本部担当

写真右　桑原　悠氏　写真左　米田博次

葉タバコの匂いが原体験

米田　津南町の農家にお生まれになったと伺っています。子供時代はどのように過ごされたのでしょうか。

桑原　地元農家の生まれで、大根を冬に保存するため藁で作った大根つぐらの上に乗せられた写真が年賀状になる様な環境で育ちました。両親は加茂農林高校で出会い早婚で私が生まれました。赤ん坊の頃は葉タバコを作っていてその匂いを今でも覚えていますが、それが原体験です。

その頃は葉タバコ農家が多かったですね、今は数軒になりました。集落の葉タバコ農家では、まだ雪が残っている春から仮植が始まり、干天の夏を乗り越え、晩秋の収納祝いを迎えるという一年のサイクルで過ごします。小中学校時代はスイートコーンの箱詰め、アスパラの選別結束、枝豆の計量袋詰め、祖母が熱心に作っていたシシトウの計量袋詰めなど、野菜の出荷の手伝いを楽しんでしていました。

私の名前の「悠（はるか）」の由来は、母の故郷の加茂川の改修記念に昭和五十九年田中角栄氏が揮毫した「流悠久」から名付けられたそうです。

真夏のじゃがいも畑で（左側が本人）

緒方貞子さんに憧れて オレゴン大学に留学

米田　故郷を出てからは、早稲田大学、オレゴン大学留学、東大公共政策大学院と学業を積まれましたが。

桑原　祖父から当時、国連難民高等弁務官を務められていた緒方貞子さんの本を勧められまして、緒方さんに憧れました。私は、将来は国連で働きたいと家族に話をしていました。

母には「見果てぬ夢かもしれないけどね」と言われましたが、広い世界に出て仕事をしたいと思っていました。

政治学の発祥の地がアメリカでしたので、そこで勉強してみたいという気持ちがあってオレゴン大学に留学し、自由主義とは何か、ソーシャリズムとは何かなど基礎的なことを学びました。

米田　オレゴン大学に留学して何か驚いたことはありましたか。

桑原　土地の使い方に驚きました。道路、農地の広さに驚かされました。州ごとの地方自治の魅力を感じましたし、市民活動の熱心な様子や、オレゴン州は農業が盛んで土日になるとファーマーズマーケットで獲れたての野菜を買って、豊かさを感じながら過ごしました。

米田　州が行っている地方自治に強く関心を持たれたのですね。

桑原　そうです。躍動感がありましたし、民間のビジネスが盛んでスピードも速いというのも勉強になりました。丁度、大統領選挙の前の年でしたが、候補者を決める年でオバマさんとヒラリーさんが民主党で争っていて若い学生たちも政治を話し合っていて、とても刺激を受けました。大変勉強になる年に留学したと思います。

長野県北部地震を契機に津南町に戻り、政治を志す

米田　二〇一一年三月の長野県北部地震をきっかけに津南町に帰る決意をされたと伺っていますが。

桑原　帰国後、実務的なことを勉強したいと思い、東大公共政策大学院に進学しました。そこで出会ったのが増田寛也先生で、当時は岩手県知事や総務大臣を務められた後、実務者教員として大学で教鞭をとり始めたころでした。増田寛也先生からは、リーダーシップとは何か、危機管理とは何か、やりがいはなどを教わりました。この時に、自分も故郷のために何かできるんじゃないかと思い、何れは戻ろうと思っていました。

二〇一一年三月に長野県北部地震があり、その時に地元の被災状況が全国に報道され、故郷の人々が大変な思いをしてるのを見た時に、今すぐに帰って手伝わなくちゃという気持ちが沸いて、その年に帰る決心をしました。しかし、友人たちは「あなたが政治の分野に行くなんて意外だ」とビックリしていました。

二五歳で全国最年少の町議会議員に

米田　ご両親や集落の皆さんの反応はいかが

だったのでしょうか。

桑原　とても驚いていました。「二五才の学卒で、人の釜の飯を食ったことが無いが大丈夫なのか。町のことをこれからかなり勉強しないといけない」というのが家族や集落の皆さんの反応でした。大学を出たばかりの若者が町議会議員になるという選択肢は周囲の想像を超えていて、ビックリだったと思います。中には、良く地元に戻ってきたなーと歓迎もされました。

米田　当選されたときは、二五歳ですか？

桑原　そうです。二五才二か月で全国最年少でした。

三一歳で全国最年少の女性町長に

米田　町長になられた時も全国最年少ですよね。

桑原　はい、町長も三一才で全国最年少です。女性首長としても最年少です。

米田　町長選の時は、政治を志した背景などについて町民にどのように訴えられたのですか。

桑原　もともと故郷に愛着があって郷土愛があって、津南町に帰ろう、津南町のために働こうと思って町議会議員になりましたが、その後、結婚・出産を経て母親になりました。母親になったことで自分の事だけでなく子供たちの事も考えるようになって、母としての気持ちが強くなり、子供の代になっても持続可能な町を作らなければいけないし、住むことに誇りがある町にしていきたいという思いが沸き、津南町の町長選に立候補させていただきました。

子育てしながら町長に

米田　町議会議員の時とは違い、難しかったのではと思いますが。

桑原　もちろんそうです。経験の乏しい若い女性に、責任のある町のトップが務まるのかが問われたと思います。

　周りからは、「チョット早い」と言われました。解っていたけれどチョット早いよ、子供小さいけど大丈夫か、家族は本当に許してるのかと言われまして、自分が初めて女なんだと沁々と感じました。

農を以って立町の基と為す

米田　津南町は「農を以って立町の基と為す」が町是と伺っています。豊かな地域資源を活かし「稼げる農業」をどのように実現されて行こうとお考えですか。

桑原　ＴＰＰの議論の際に農業の算出額がＧＤＰの一％「しか」ないという論調で伝えられていたと思いますが、世界と比較すると日本は立派な農業大国です。農業は間違いなく重要な産業ですし、食べ物を生産する産業ですから絶対無くなりません。それがあたかも稼げない産業であるかのように言われていることに対して反骨心があり、何とかしたかったのです。

　津南町は「農を以て立町の基と為す」という町是でやってきた農業立町です。自分も農家に生まれ育って農家に嫁ぎました。町民の多くも農家であり、農業への思い入れが強かったので、農業を次世代も続けていけるような形にしなければならないと就任以来、町の体制や施策を充実させてまいりました。

米田　具体的にはどのような政策を進められていますか。

桑原　一つには、担い手の育成ですとか、ほ場整備の推進のための基金創設を進めてきました。担い手の育成については、窓口の農林振興課で親身に農業者の相談に乗らせていただき、法人化の設立支援により、近年、七法人が立ち上がっています。三十代、四十代の元気な農家が会社経営者として頑張っています。また、ほ場整備については、次世代の農家が農業を続けていくために、今のほ

場の形ではやりにくいし、高齢化が進む津南町の中で農地を守っていくためにほ場整備の推進も掲げています。

昭和四十年代後半からの国営事業の整備により津南町の水田の整備率は七八・三％で、新潟県全体の整備率六四・一％より高い整備率となっていますが、未整備のところの課題がまだ残っていますので、令和三年度に新たに津南町農業振興基金を創設しました。これは、ほ場整備の推進に際し、農家負担の軽減などへの活用を考えています。

区画整理された田園風景

高品質の魚沼産コシヒカリをベースにした複合経営

米田　津南町では魚沼産コシヒカリがブランドとなっていますが、産地間競争が進む中でどのような取り組みを進めていますか。

桑原　食味向上のため、食味コンクールへの出品数を増やし、外部からの評価を受けるための取り組みや、昨今の気候変動に対し、安定して品質の高い米づくりをするための土づくりの支援を行っています。目標としては、令和五年に津南町で開催を予定している国内最大の米の品評会、米・食味分析鑑定コンクール：国際大会での金賞受賞をはじめ高い評価を目指しています。このコンクールが魚沼米全体の評価の向上に繋がればと期待しています。

米田　国際大会というのは海外からも出品されるのですか。

桑原　国内が多いですが、中国や台湾などの出品も想定されています。出品数が約五千点ほどで、その中で食味を競う大会です。

また、米をベースにしつつ、国営で整備された畑地もありますので、高原野菜や花の生産などが津南町の特徴です。国のリーサス※（RESAS）［※リーサス（地域経済分析システム）］でも分かるように、津南町は米より野菜の方が産出額が多いです。新潟県は米どころのイメージがあるかと思いますが、津南町は米だけでなく、野菜、花、畜産もあり、新潟県が目指すバランスの良い複合的な農業の構造をしています。私はこれが強みになると考えています。

新潟県で二例目となる地理的表示（GI）保護制度の認定を取りました「津南の雪下にんじん」や甘くて柔らかいアスパラガスやスイートコーン、さらにキャベツの生産拡大なども行っています。今が最盛期となっているユリ切り花「雪美人」もあり、なかでもカサブランカという品種は世界一の植付本数を誇り、市場で最高級品として評価されています。それぞれ一億円産地の育成、一億円を超えている作物はさらなる増加を目指して重要品目として掲げ、生産の振興を図っています。

米・食味コンクール津南プレ大会

地理的表示（GI）の「津南の雪下にんじん」

甘くて柔らかいアスパラガス

農家と旅館女将の連携の取組も

米田　農家と旅館の女将が協力する取り組みを始められたとお聞きしていますが。

桑原　津南町の農産物は、豪雪地帯の豊富な水資源や農業者の努力のおかげで、米、野菜、花どれも非常に高い品質が魅力で、外に出荷するだけでは勿体ないと旅館やホテルの女将さんたちが常々おっしゃっていて、宿でお客様に地元の農産物を使っていることをPRしたいし、もっといろいろな津南産のものを使いたいとの声が上がり、農家と旅館の女将がコラボレーションができました。

　夏は、ユリをPRしようということで町内の各旅館やホテルにユリが飾られています。新米の時期は津南のコシヒカリの新米が食べられるなど、季節ごとに観光関係の方々とのいろいろなコラボレーションが生まれています。

　また、農業者からは、津南町は良いものを作っているんだからもっと販売に力を入れてほしいとの声が強くあります。役場内で若手職員が販売戦略推進チームを作って戦略を練り実践しているところです。ユリのセールスもそのチームから生まれたアイデアです。今日もユリ生産者と女将さんたちと一緒に越後湯沢駅でユリの積み込み式を行って、新幹線で東京駅に運びました。東京駅、上野駅、品川駅など駅構内の青山フラワーマーケット様で販売しました。

越後湯沢駅でのユリの出荷式（7月15日）

スマート農業や新規就農への取り組み

米田　国の方針としてスマート農業の取り組みが進められていますが、それもいち早く取り入れているようですが。

桑原　広大な農地をフルに活用し、町の農業を発展させていくために、スマート農業も進めてまいりました。現在、農林水産省のスマート農業実証実験プロジェクトに新潟県と一緒に取り組み、キャベツと雪下にんじんの実証実験を行っています。スマート化により作業の効率化、軽労化、作付けの拡大に繋げたいと思います。農業者からは作業が楽になった、これだと年をとっても続けていけるとの声が出ています。

　さらに町独自の取り組みとしては、スマート農業の機械導入への補助、ドローンのライセンス取得の支援などを行っています。私も時々、町内をまわってドローンで作業を行っている場面を見かけ、従来の農業のイメージから変わってきていると実感しています。

米田　新規就農が増えているようですね。

桑原　新規就農者の受け入れは県下でトップクラスでして、農業Iターンで来られた方々が活躍しています。彼らは非常に研究熱心で新たな作物への取り組みや六次産業化など、新たなモデルになっていると思います。また、Uターンで戻ってくる方も心強い存在です。親元で就農された法人

化の希望者などにも、手前味噌ですが親身に相談に乗らさせていただいております。

米田　新規就農の方は県内外から来られているんですか。

桑原　県内外から来られています。関東や県内などいろいろな所から来ていただいています。新規就農者用のアパートを用意しています。

　また、農業以外の方々のUIターンも推進していきたいと考えています。これも役場内で若手職員が移住定住プロジェクトチームを立上げてコンセプトや施策を練っているところです。コロナ禍で密な暮らしから、地方の暮らしを望むニーズに対応できるよう準備を進めているところです。

無人で作業できるロボットトラクター

作業の軽労化が図られるラジコン除草機

収穫作業がスムーズとなるキャベツ収穫機

滞在型プログラムによる観光振興

米田　苗場山麓ジオパーク、大地の芸術祭などの資源を活かした観光振興などについても力を入れていますね。

桑原　津南町の特徴は何といっても雪が多く降ることでして、北緯三七度にあります。同じ緯度にはアテネ、リスボン、シチリア、サンフランシスコなど温暖な雪の降らない都市です。津南町は例年三メートルほどの降雪がある世界的にみても珍しい気候が特徴です。また、この地域で多雪化したのは八千年前位からとされています。ここは旧石器時代から人が住み続けていた跡があり、雪が降るようになっても住み続けていたという歴史を整理して伝えているのが苗場山麓ジオパークです。子供たちの郷土教育にも活かしています。将来、社会の第一線に立った時、自分の国や故郷の文化を自分の言葉で伝えられるようになってほしいという願いがあります。

　今後はこういった歴史文化を滞在プログラムとして来訪者に伝える取り組みを行っていきたいとです。欧米の方は旅をすることで新たな知見を得てビジネスに活かしていると聞きますので、そのようなニーズに応えられるようにしたいと思います。縄文時代から人が住み続けていることや雪国文化を伝える滞在型プログラムを作成中です。

　また、今年は新型コロナウイルス感染症により残念ながら延期となりましたが、アートによる地域づくりを十日町市と津南町で三年ごとに行っているのが大地の芸術祭です。これまでのホワイトキューブと言われる美術館の中に作品があるといった芸術の在り方から、田畑や集落の中に作品があって、地域の方々が来訪者と交流するなどの地域づくりを進めてきています。

米田　新潟県庁に勤務している時に、棚田に農作業している人の姿の作品が幾つも置いてあるのを見て驚きました。

桑原　大地の芸術祭は、住民の誇りづくりとして始めたプロジェクトですが、二〇年間で回を重ねるごとにお客様も増え、経済効果も上がり、国からも地方創生のモデルとして評価されています。

前回は、特に台湾、香港など海外の方を多くお迎えしました。海外の方々にとっても農村部の地方創生の一つのモデルとして視察に訪れる方がいらっしゃいました。

「津南未来会議」で住民参加の町づくり

米田　女性、学生を含む多様な人々が参画する「津南未来会議」を立ち上げたと伺っています。女性活躍に手ごたえは感じていますか。

桑原　私は参加できる町づくりを掲げていますが、町民、あるいは津南でお勤めの方を含めて、津南の人々が自分たちで、これからこの町をどうしていこうかと考え、アクションを起こせるようにと始めた会議です。会議には女性も三割以上参加していただき非常に活発な意見交換がなされました。参加者からは、「町に集える場所がほしい、交流し率直な話をしながら企画が生まれる場所がほしい、津南町の文化的なところを伝える観光地域づくり法人の立上げがしたい」などいろいろな意見や提案がありました。

この会議から生まれたいろいろなコラボレーションもありますし、これからの地域づくりの担い手の皆さんが集まっていろいろな議論が交わされています。

米田　町長の想いとそういうことをやってみようかなという人達の想いが上手くマッチングし始めているという感じでしょうか。

桑原　ええ、でもまだまだですね。コロナ禍で人との交流が全くストップしてしまったことが大きかったので、足踏みをしていますが、農家と旅館の女将のプロジェクトもそうですが、町民の皆さんが発案するプロジェクトは行政としても応援していきたいと思っています。

頻発する自然災害への対応

米田　近年、地震や豪雨など自然災害が多くなり、農地やため池の被災も懸念されます。災害対応については、どのように取り組まれていますか。

桑原　近年の異常気象は気候変動によるものだという認識でいます。激甚化した災害が頻発している状況は、国全体の話ではないかと思っていますが、津南町でも令和元年の東日本台風の際に水路などで三五か所被災しました。一方で、年によっては少雪や少雨により水不足も顕著です。土地改良区と連携し、水管理は輪番制などを実施して早くから対応しています。

今後は中山間地域におけるほ場の大区画化や用排水路の新たな整備により、水害や干ばつなど自然災害の軽減を図っていきたいと考えております。

本年度は、防災重点ため池でハザードマップを作成しまして、地域住民へ周知する計画でいます。特に、災害時には迅速な情報収集と防災広報無線や防災メール、農業者向けのＬＩＮＥなどを通じて情報発信し、町民の皆さんから早めに警戒していただくようにしています。

また、私は内閣官房の国・地方脱炭素実現会議のメンバーになっていまして、国全体で二〇五〇年に向かって脱炭素社会を実現していこうという方針を掲げていますけど、津南町でも脱炭素の取り組みを強く進めていきたいと思っています。農業分野ではスマート農業、たい肥、小水力発電への取り組み、また、町内に四か所ある雪室の活用によるCO_2の削減効果を見える化して、消費者に津

南町の農産物をPRしたいと思っています。

今後の土地改良への期待

米田　津南町は、苗場山麓地区の国営土地改良事業をはじめ県営の土地改良事業等を活用し農業基盤の整備が進んできましたが、今後の基盤整備についてはどの様にお考えですか。

国営農地開発事業（苗場山麓地区）で整備された圃場

桑原　昨年秋に土地改良長期計画の地方ヒアリングの際にも話をさせていただきましたが、スマート化などで通信環境を活用した農作業も増えてくると思います。基盤整備は土地だけでなく情報通信も基盤整備の一つだと考えています。これからは基盤整備と一緒に情報通信も整備していけたらと考えています。具体的にはスマートフォンなどで水田の水管理やハウスの温度管理などができるよう農地からデータを送信できる情報通信環境の整備を計画中です。

土地改良は津南町に欠かせない事業だと思っています。津南町は中山間地域であり、土地改良の取り組みは集落の維持や営農の継続、さらに町全体の活性化に繋がっていくと考えていますので、今後もほ場整備を推進していきたいと思います。また、災害に強い地域づくりや営農を支える用水の安定的な確保には大変重要な役割を土地改良の取り組みは果たしていると思っています。

米田　地方の時代と言われて久しいですが、国の出来ることは限られています。桑原町長さんのお話を伺い、具体的なアイデアを考えて、それを実現出来るのは地方の行政組織でないかと改めて感じました。本日は、お忙しい中、誠にありがとうございました。

（令和三年七月にインタビュー）

桑原（くわばら）　悠（はるか）

新潟県中魚沼郡津南町長

1986年新潟県中魚沼郡津南町生まれ。2009年、早稲田大学社会科学部卒業後、2011年、東京大学公共政策大学院在学中に津南町議会議員に当選。2015年、再選し副議長に就任。2018年、津南町長選挙に初当選。現在1期目。
津南町と長野県栄村を範囲とする苗場山麓ジオパークや、令和4年夏に津南町、十日町市で開催予定の「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」に是非お越しください。